

令和6年度 定期作況報告

〈令和6年5月20日現在〉
地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部 道南農業試験場

1. 気象経過

根雪始は平年に比べ25日遅く、根雪終は27日早く、積雪期間は平年より51日短かった(表1)。

4月下旬：平年と比較して平均気温は2.7°C、最高気温は2.2°C、最低気温は4.5°C高かった。降水量は18.0mmで平年の111%、日照時間は61.1時間で同85%だった。

5月上旬：平年と比較して平均気温は平年並、最高気温は0.7°C高く、最低気温は平年並であった。降水量は32.0mmで平年の173%、日照時間は80.4時間で同122%だった。

5月中旬：平年と比較して平均気温は2.4°C、最高気温は1.1°C、最低気温は1.5°C高かった。降水量は48.0mmで平年の191%、日照時間は73.2時間で同111%だった。

以上、平年に比べ平均気温は1.8°C、最高気温は2.0°C、最低気温は1.9°C高かった。降水量は98.0mmで平年の164%、日照時間は214.7時間で同105%だった(表2)。

表1 季節調査

項目 年次	前年		本年							
	初霜 (年月日)	根雪始 (年月日)	根雪終 (年月日)	積雪期間 (日)	降雪終 (年月日)	耕鋤始 (年月日)	晩霜 (年月日)	初霜 (年月日)	無霜期間 (日)	降雪始 (年月日)
本年	R5.11.05	R6.01.07	R6.2.13	38	R6.4.09	R6.4.08	R6.4.10			
平年	10.21	12.13	3.11	89	4.17	4.08	4.27	10.21	176	11.10
比較	15	25	▲27	▲51	▲8	0	▲17			

注1) 耕鋤始は農試データ、それ以外は函館地方気象台(函館市美原)の観測値を使用した。

ただし、晩霜は函館地方気象台の観測値に基づく推定値(最低気温が1.3°C以下)とする。

注2) 平年値はてん蔵(前10か年)による。

注3) 比較の▲は「早」を示す。

注4) 降雪終および晩霜の本年値は、5月20日現在においては未確定である。

表2 気象表

調査項目	4月下旬			5月上旬			5月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温(°C)	12.1	9.5	2.7	11.7	11.4	0.3	15.1	12.7	2.4	13.0	11.2	1.8
最高気温(°C)	17.5	15.3	2.2	17.7	17.0	0.7	21.1	18.2	1.1	18.8	16.8	2.0
最低気温(°C)	7.7	3.2	4.5	5.5	5.8	▲0.3	9.0	7.5	1.5	7.4	5.5	1.9
降水量(mm)	18.0	16.2	1.9	32.0	18.6	13.5	48.0	25.2	22.9	98.0	59.9	38.2
日照時間(hr)	61.1	72.1	▲11.0	80.4	65.7	14.7	73.2	66.2	7.1	214.7	203.9	10.8

注1) 観測値は北斗市のアメダスデータによる。平年値は前10か年の平均値である。

注2) 比較の▲印は「低」または「少」を示す。

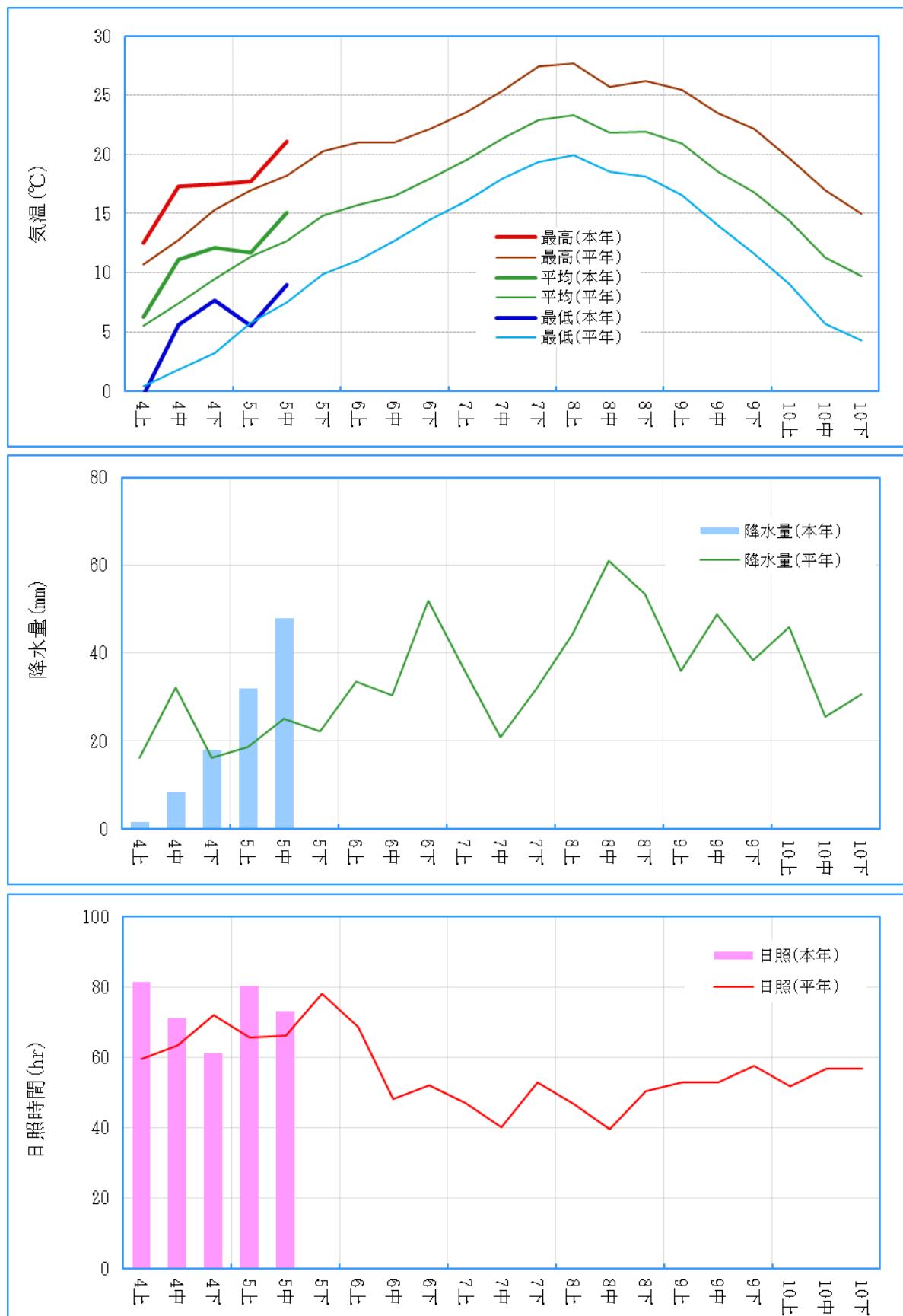


図1 気温、降水量及び日照時間の平年との比較(令和6年、北斗市)

2. 作況（水稻）

5月20日：やや良

事由：播種は平年より1日遅い4月23日に行った。出芽までの日数は平年並で、出芽期は4月28日であった。育苗期間中、4月下旬は高温で寡照、5月上旬は平年並の気温で多照、5月中旬は高温で多照であり、全体として高温でやや多照であった。移植は平年より1日遅い5月21日に行った。移植時の苗の形質において、2品種ともに草丈は平年より長く、葉数・茎数は平年より多く、地上部乾物重は平年を上回った。苗の充実度を表す地上部乾物重/草丈の値も2品種ともに平年を上回っていた（表3）。以上のことから、現在の作況は「やや良」である。

注)本作況は、道南農業試験場における平年値に対する水稻の生育良否に基づいたものであり、渡島・檜山を代表するものではありません。

表3 水稻の生育

項目	品種名 /年次	ふっくりんこ			ななつぼし		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
生育期節	播種期 (月日)	4.23	4.22	1	4.23	4.22	1
	出芽期 (月日)	4.28	4.27	1	4.28	4.27	1
	移植期 (月日)	5.21	5.20	1	5.21	5.20	1
	幼穂形成期 (月日)		7.01			6.27	
	止葉期 (月日)		7.17			7.15	
	出穂期 (月日)		7.26			7.24	
	成熟期 (月日)		9.15			9.09	
	穂揃日数 (日)		7			6	
	登熟日数 (日)		51			48	
	生育日数 (日)		146			141	
移植時	草丈 (cm)	15.8	13.4	2.4	14.8	13.1	1.7
	葉数 (枚)	3.8	3.3	0.5	3.8	3.3	0.5
	茎数 (本/個体)	1.67	1.28	0.39	1.40	1.06	0.34
	地上部乾物重 (g/100本)	3.72	2.72	1.00	3.86	2.62	1.24
	地上部乾物重/草丈	0.24	0.20	0.04	0.26	0.20	0.06
本田生育	葉数 6月20日 (枚)		7.7			7.9	
	7月20日		10.6			10.5	
	止葉葉数 (枚)		10.7			10.6	
	茎数 6月20日 (本/m ²)		550			478	
	7月20日		811			721	
	8月20日		711			651	
	草丈 6月20日 (cm)		33.1			34.0	
	7月20日		78.0			80.9	
	8月20日		93.5			93.4	
	成 熟 期						
成熟期	稈長 (cm)		77.9			76.1	
	穗長 (cm)		16.0			16.3	
	穗数 (本/m ²)		703			647	
収量構成要素	一穂粒数 (粒)		47.3			51.2	
	m ² 当粒数 (×1000)		33.2			33.0	
	稔実歩合 (%)		94.1			94.5	
	m ² 当稔実粒数 (×1000)		31.3			31.2	
	同上平年比		100			100	
	登熟歩合 (%)		85.1			81.6	
	穂摺歩合 (%)		76.1			78.4	
	屑米重 (kg/a)		5.0			3.2	
	屑米歩合 (%)		7.7			5.0	
	精玄米千粒重 (g)		22.7			21.7	
収量	わら重 (kg/a)		67.7			68.1	
	精粒重 (kg/a)		78.5			77.0	
	精玄米重 (kg/a)		59.7			60.4	
	収量平年比 (%)		100			100	
	玄米検査等級 (等)		2上			1下	

注1) 平年値は前7年間の令和4年(2022年、最豊年)、平成30年(2018年、最凶年)を除く5年の平均値を用いた。

注2) 苗は中苗紙筒、栽植密度は25.3株/m² (33cm×12cm)、1株3本植え。注3) 本田にはN、P₂O₅、K₂O成分をそれぞれ7.5、9.1、6.5(kg/10a)施用した。

注4) 篩目は1.90mmを使用し、精玄米重、千粒重とも水分15.0%に補正した。

注5) 登熟歩合は比重1.06の塩水で調査した。

注6) 比較の▲印は「減」または「早」を示す。